

やくわえ

第五十号

年頭所感

東京都神道青年会会長 篠直嗣

不易流行

直嗣書

新年を迎え、謹んで皇室の弥栄を壽ぎまつり国家の安泰、また御社頭の隆昌と各位の御多幸を衷心よりご祈念申し上げます。

昨年は、皇太子殿下御成婚という皇室の御慶事と、国家無双の大嘗、皇家第一の重儀である神宮の式年遷宮遷御の儀も無事おこなわれ、洵に忘れ難い年となりました。唯一方では、大凶作に見舞われた事により自然の驚異を知り、政權交替をこの目で見る年でもありませんでした。

私達の国はこの先、どの様な路を歩んで行くのでしょうか。神社界は、そして神社は果たして安泰なのでしようか。日毎変化する世情を見るにつけその不安は募り、決して油断はできないと考えられます。先輩諸賢の在任当時に於ける夫々の所感にも混迷の言葉が目

に着きますが、現状はどう考えても混迷どころか異常としか受け止められません。内閣総理大臣の発言や、報道関係者或いは宮内庁職員の見聞など、啞然とする事ばかりであり、日本人としてのアタリマエが今は寧ろ非常識になりつつある様で、恐ろしささえ感ずる次第です。

さて今年には終戦五十年目という年回りです。大東亜戦争については種々意見も出ておりますが、彼の戦いも大義名分によるものであり、日本人としては何ら謝罪すべき事ではないと存じます。

振り返れば昭和天皇の御導きにより先人国民個々の護国精神で苛酷な過程を切り抜くことができ、その結果、発展目覚ましい現代社会を築き上げたのです。その礎となり国を護るため尊い命を捧げられた人々の御霊をお慰めするのは、現代に生かされている私達の当然の義務と存じます。更に、占領軍の日本弱体化政策により国の全てが変えられようとした五十年前を回顧し、意義あるこの年に日本民族道統護持を念頭に国の将来、斯界の将来を考える事も青年の重要な責務と考えます。

平成六甲戌年、正に緊張の夜明けであります。謹んで会員各位に「不易流行」の意を呈し、本年の青年会活動を進めて参る決意を表明致したく存じます。本会も四十五歳の誕生日を迎えますが、先輩諸賢が汗と涙で育て上げたこの会を、五十歳の大きな節目の祝いに向け、より強く成長させねばなりません。

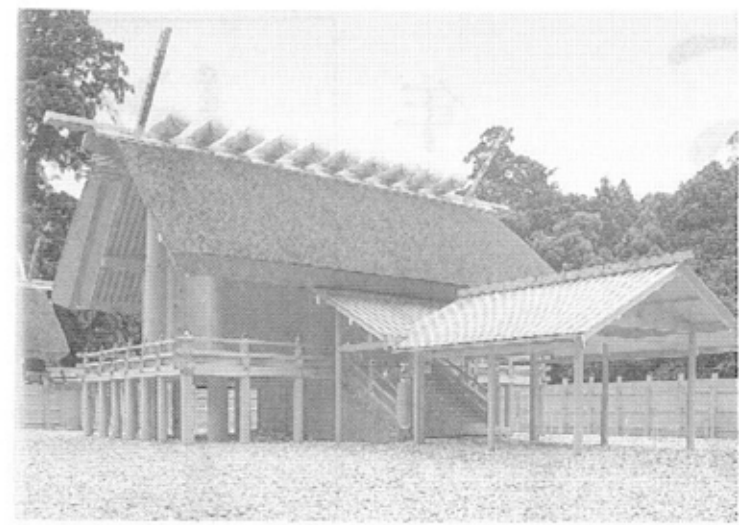
本会存在の本義は、神社神道興隆を期する為に、様々な知識と手法を学び斯界と個々の将来に充分役立たせることにあり、従って、各位の努力により日々前進するこの歴史ある会を、会員としてより有効に活用して頂きたいと存じます。各社各位の為になることは、必ず斯界の為になり国の為になると存じます。更には、事有る時に支えになるのは、共に汗水流した同志しか居ないという事実を、会員の自覚として留め置く事を切望する次第です。

創立四十五周年の佳き年に当たり先輩諸賢の御指導のもと、より多くの会員諸兄と一致団結努力致して参ります。

本年も何卒宜しくお願い申し上げます。年頭のご挨拶と致します。

遷御の儀に仕えまつりて

神明宮 齋藤 博明



この度の第六十一回式年遷宮に当り、内宮御遷宮に臨時宮掌補として御奉仕させていただきました。神宮最大の祭祀といえは遷宮であり、その目的や意味、そして何故二十年に一度齋行されるのか、凡ゆる観点から多く語られてきました。準備にも数年を要し全国的な奉賛会も組織された結果、各方面からの浄財による募金も予定を大きく上回り、全ての準備が万端整

えられたとのこと。やはり現代にあっても神宮を本宗と仰ぐ日本人の心には何ら変わりがないと感じていたのですが、その遷宮にまさか自分自身が御奉仕できるとは、それも正服を着け遷御の列に加わるとは夢の様な出来事であり、只々感激の三日間でありました。

臨時宮掌補は全国十ブロックから一名づつの十名であり、所役は全員が遷御に於ける御神宝の奉持でありました。私の担当は赤紫綾御蓋（アカムラサキノアヤノオンキヌガサ）であり、写真等で事前に確認出来たものの、いわゆる修礼はなく、ぶっつけ本番というか召立の儀までその大きさ、重さを実感することが出来ないとのこと。地区代表として恥かしくない御奉仕をと思う気持ちは皆同じ、不安は大きかったです。必す本職の方が入って下さると聞いて一安心と同時に折角のこのチャンス、目の前の全ての様子を脳裏に焼き付ける為には概ねの流れを掴んでおこうと暇さえあればかなり分厚

い儀註に目を通し、不安な参籠の時を紛らわしたものでした。

しかし聞くで見るとは大違い。まして奉仕してみるとその規模、スピードの違いに戸惑うばかりでありました。なにしろ参進すれば先頭は百メートル以上も先の為、全く見ることが出来ず、特に八度拝の速さには驚くべきものがあり、川原大祓の儀では本職の方々と我々臨時職の間ではワンテンポずれてしまった程でした。

遷宮の当日は朝から天気も良く午後六時齋館より発進する頃には松明の明かりに加え、月明かりも差し、自然のライトアップといったところでしょうか。

中重にて玉串行事を終え、内院の版に着くとそこはまるで別世界。月明かりに浮び上がる正殿の千木、庭燎の明かりにキラキラと光る玉石、まさに神域としか言い様がないう光景が広がり、千数百年をタイムスリップしたかの様でした。特にその緊張がピークとなる出御時には神の畏怖を感じざるを得ず、身振るいしたのは私だけではなかつたと思います。

遷御の列は想いのほかゆっくりで一步一步暗い足許を踏みしめる

といった感じであり、新宮への入御が無事済むと、月明かりに浮ぶ他の奉仕者の表情からは安堵と満足感が伺われ、私自身玉石に座る感触を楽しみむ余裕すら出て来た程でした。

中重に戻り、八度拝。今度は百数十名の奉仕者に一系の乱れもなくその動きはまるで古代から今に至るまで日本人の心に流れる熱き思いが大きなウェーブとなって正殿に打ち寄せているかの様でした。こうして瞬く間に緊張と感動の四

時間が過ぎ去ったのでありました。東京地区代表として無事に御奉仕を終えることが出来ました。これも神宮からの奉仕依頼を我々青年会に譲って下さった神社庁の皆様方、そして青年会の代表としてこの私をご推薦下さった会員の皆様方のご厚意と厚く御礼を申し上げます。この貴重な体験と感動はなかなかうまく表現することが出来ませんが、今後の神明奉仕に生かし、二十年後の第六十二回遷宮にも何らかの形でお手伝いさせていただきます。けたらと考えております。

貴重な体験をさせていただきました、本当に有難うございました。

御成婚パレード・提灯行列に神青会員がお手伝い

六月九日、皇太子殿下ご成婚パレードに際し、「日の丸小旗配布」を行ないました。これは、皇太子殿下御成婚東京奉祝委員会の諸行事の一つで、東京都神社庁の依頼を受け、二十六名の神青会員が奉仕しました。

神青会が担当したのは、新宿通りの麴町二丁目から四丁目までのエリアで、午後一時に麴町四丁目交差点に集合し、神青会で新調した揃いのウインドブレーカーと奉祝委員会の帽子を着用し、十か所の配布場所へ別れ、二時半頃より、警察官による手荷物検査を終えた人々に日の丸の小旗を配布しました。

午後四時頃降り続いていた雨もあがり、沿道の奉迎の人々が固唾を呑んで両殿下をお待ちする中、午後五時頃に神青会が担当したエリアをパレードの車列が通過されました。神青会員は「バンザイ」の先導をしながら両殿下の御成婚をお祝い申し上げました。交通規制解除後、沿道の清掃・かたづけをし、解散しました。

六月十二日には皇太子殿下御成婚奉祝大提灯行列及び都民の集いが行なわれ、神青会より三十五名が運営委員として参加した他、当日集まった多くの会員が提灯行列の手伝いをしました。

午後三時に日本青年館に集合し、他の団体の運営委員の方々と共に結団式・打ち合せをした後、各部所に別れ、参加者の受付や来賓・マスクミ等の受付・誘導及び梯団関係の仕事をしました。

六時二十分に出発式が行なわれ、六時三十分より各梯団が順次出発しました。神社庁関係の梯団は四十梯団のうち九番目から十二番目迄の四梯団で、神青会員は神社庁の理事の方々と共に梯団長・副梯団長を務めたり、横断幕・プラカードを掲げ、雰囲気盛り上げました。

梯団長がハンドマイクで「皇太子殿下御成婚万歳」等の先導をし、参加者全員で唱和しながら目的地の聖徳記念絵画館前に向かい、途中で提灯のローソクに火をつけるなどして、行列が進みました。



全梯団が絵画館前に入場した後、「皇太子殿下御成婚奉祝都民の集い」が行なわれ、両殿下の御光臨を賜り、参加者一同感激にひたりながら、バンザイの声がやみませんでした。

都民の集い終了後、後かたづけ解団式が行なわれ、余韻の残る絵画館前をあとにしました。

(奉仕企画特別委員会
委員長 唐松孝文)

〇こちら教化部

昨年教化部の活動として、日頃「書くのがちょっと手間だな」と思われるようなポスターを作製し、都内神社に配布致しました。

まず皇太子殿下の御成婚に対する極左暴力集団のゲリラ事件防止のため作製した

『特別警戒中』

次に昨年十月に行われた伊勢神宮の式年遷宮日時を氏子の方々へのご案内として作製した

『遷御』

そして初詣の方々へのご案内として作製した

『平成六年の厄年』

どれもこれも不出来でお恥ずかしいポスターでしたが、今年も幾つか作っていかうかと思っておりますので、ご意見ご希望等ございましたらどしどしお寄せ下さい。

この他、都氏青協への参加、協力として総会・定例会・忘年会等の手伝いを致しました。

また、都神青四十五周年記念事業の一環としてグラウンドジャンパーを作製し、皇太子殿下御成婚パレードや提灯行列のお手伝いの折に着用致しました。

手水舎

自動出水装置について

荻窪八幡神社 小俣宗昭

当社で、手水舎にセンサーとリレー及び電磁バルブを組み合わせた自動出水装置を導入してかれこれ十五、六年になるかと思う。

当初は、センサーに赤外線透過型（送信部と受信部があり間に検知物体があると反応するタイプ）、ついで赤外線拡散反射型（送信部と受信部が一体となっており、検知物体からの反射を感知するタイプ）のものを用い、これに動作保持用のリレーと、タイマーを組み合わせた物を使用して見たが、いずれも誤動作が多く、配線も面倒な物であった。

十年ほど前に松下電工製の「超音波無人開閉用スイッチ」なる物を秋葉原で見つけて、さっそく購入し、設置したところ、比較的誤動作も少なく、今まで故障せずに働いている。このスイッチは、動作保持用のタイマーも内蔵されていて、電源からの配線と、電磁バルブへの配線以外は一切不要なの

で、ちょっと電気のおさわされる人なら、簡単に設置できると思う。当時の値段で一万六千円だったが、現在でも二倍まではしていないだろう。

なお、このスイッチはかなり大きな物なので、天井が低い手水舎では、目障りだし、イタズラされる危険もあろう。その場合には、検知部と本体が分離したタイプもあるようなので、そちらを採用されたい。

又、最近では遠赤外線を用いた、かなり小型のセンサー（パッシブ式という）も発売されているのでこれも利用できるであろう。

屋外に設置することになるので漏電には、十分注意する必要がある。（電源に漏電ブレーカーをいれるのも必須）

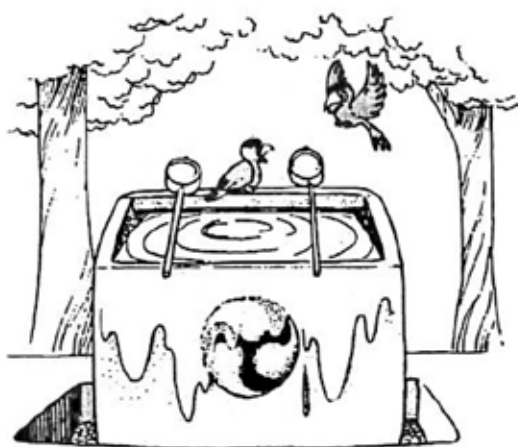
実際に水を制御する電磁バルブについては、値段・形式とも千差万別であるが、当社では、秋葉原のガード下の「鳥居電業」という店で店頭並べて置いてある100V用、13（mm）径の、型番などついていない物（たしか二千円位）を使用しているが、二、三年はもつようである。

水道まわりの工事は、手水舎ま

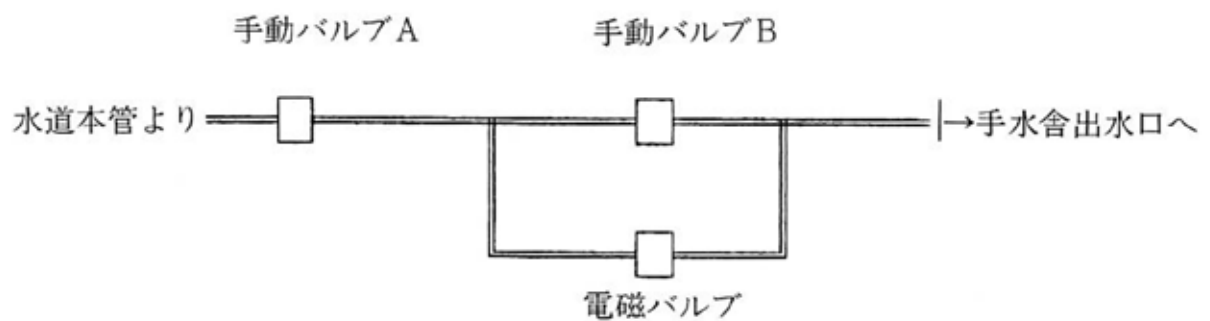
での配管が塩ビなら、素人でもできないことはないと思うが、鉛管ではお手上げ。出水口の手直しなども必要になるだろうから、専門家に電磁バルブの現物を見せて依頼するとよい。

電磁バルブは、中に土砂が入ると、すぐに止水があまくなるので、設置の際は清掃に十分注意してもらふことと、壊れたとき簡単に交換できるように、袋ナットを用いて接続してもらふこと。

前述したスイッチだけでは、「人が来ると水が出て、しばらく出続ける」だけの動作しかできないが24時間タイマーを組み合わせれば参拝者の多い時間は水を連続して出し、夜間は人が来たときだけ水を出すような事も可能となる。各自、お考え頂きたい。



配管



バルブA	常時開	流量調整及び電磁バルブ交換時に使用
バルブB	常時閉	電磁バルブ故障時に使用

松下電工製
「超音波無人開閉用スイッチ」
参考

分離型 EN085
一体露出型 EN8335

こちら事業部 健康診断班

欧米型食生活の普及によって健康にマイナスなコレステロールという問題が出てきました。コレステロールは肝臓で作られている訳ですが、この点について、東京女子医科大学講師 栗原毅先生のお考えを、明治乳業の広報紙十二月号よりご紹介します。

コレステロールが常に悪者にされるのは、高血圧、喫煙とならび動脈硬化の三大危険因子とされるからです。動脈硬化とは血管内膜にコレステロールなどが沈着し、結合組織の増殖が起こり、その結果、血管の内腔が狭くなり血液がつまり易くなった状態を言います。

そして、心筋梗塞や狭心症、脳梗塞など命を脅かす重大な病気が引き起こされるのです。その最大原因といふべきものが高コレステロール血症です。したがって、自分のコレステロール値を知り努力と忍耐で下げることが必要でしょう。コレステロールが高いとしても何の症状も現われず、ある日狭心症や心筋梗塞になってから気づいても遅いのです。

コレステロールにもHDLコレステロールとLDLコレステロールの二種類があり、HDLは細胞に溜ったコレステロールを肝臓に送り出して血管壁の掃除をしている、いわば「善玉コレステロール」でこれが多いと動脈硬化を起しにくくなります。逆に、LDLは肝臓から細胞にコレステロールを運びこむことにより動脈硬化を助長することから「悪玉のコレステロール」と呼ばれます。つまり、LDLを下げてHDLを上げるのが理想的なわけでは、LDLがなくてよいのでしょうか。これについては、防衛大学校講師石川俊次先生が、共著『コレステロールを下げる食事』（主婦と生活社刊）で、LDLの役目は、もともと体の中の細胞に必要なコレステロールを運ぶことにあります。LDLコレステロールがなければ、細胞壁は薄くなり、ホルモンなども作られにくくなって肝臓病の危険が出ます。

要はそのバランスで、別表の様に総コレステロールは220mg/dl未満に、HDLコレステロールは40mg/dlになる様な食生活を心がけ、ストレスの発散も大事との事です。

この点神青の担当医、北品川クリニック副所長中島安三先生は、コレステロールの改善には、動物性脂肪や卵類、モツ・レバー等を控え、カボチャ、ゴボウ、レンコン、イモ、キャベツ、タケノコ、リンゴ、バナナなどベクチンの多い野菜・果物、ヒジキやわかめの様なアルギン酸の多い海藻やコンニャクを摂る様にとの事です。いずれにしても、肉食だけとか過労など、かたよった食事や生活が大敵の様です。

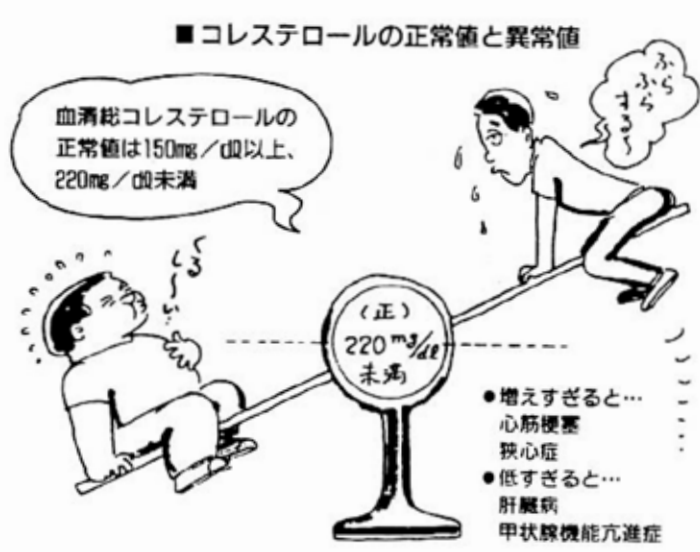
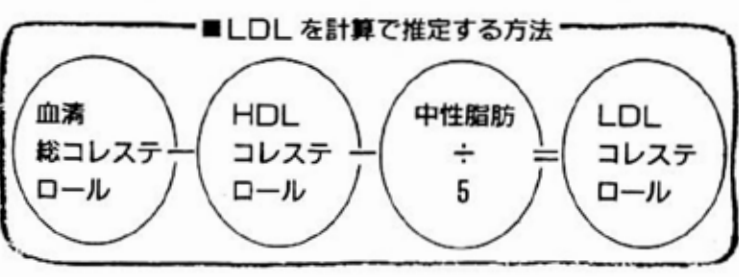
急激な減量は体の抵抗力を損うので、腹八分を気長に、水泳や歩行(やや速足)も良いそうです。そこで前出の栗原先生は、「もし、HDLコレステロールを増やすならタバコをやめ、適度な運動を日課にすることです。あくまで適量のアルコール(一〜二合)ならばHDLが増えるといううれしい情報をつけ加えておきましょう。」と結ばれておられました。

急激な減量は体の抵抗力を損うので、腹八分を気長に、水泳や歩行(やや速足)も良いそうです。そこで前出の栗原先生は、「もし、HDLコレステロールを増やすならタバコをやめ、適度な運動を日課にすることです。あくまで適量のアルコール(一〜二合)ならばHDLが増えるといううれしい情報をつけ加えておきましょう。」と結ばれておられました。

(事業部部長 石倉義康)

血清脂質	正常域	高脂血症境界域
総コレステロール	150~219	220以上
LDLコレステロール	70~139	140以上
トリグリセリド(中性脂肪)	50~149	150以上
HDLコレステロール	40~	40未満

単位: mg/dl 資料: 厚生省「高脂血症診療のてびき」, 日本医師会編



『成年にちなみ、

イヌにまつわる話』

イヌは、縄文時代から日本人に飼育され、狩猟や先導に用いられてきました。この時代すでにイヌが人の良きパートナーであった証拠に、様々な貝塚などの遺跡から丁寧に埋葬されたイヌの骨が発見されています。弥生時代の銅鐸には、五匹のイヌに囲まれたイノシシを射止めようとしている人物なども描かれています。

八世紀には、『古事記』『日本書紀』『風土記』などに、イヌの記事がいくつもでてきます。『日本書紀』景行天皇の巻には、ヤマトタケルが東国の征服に成功した帰途、信濃のけわしい山中で山神の崇りで道に迷ってしまった時、途方にくれたヤマトタケルのもとに白イヌがやってきて、無事に美濃に導きだしたとあります。

また、秩父の三峰神社の神の使いはオオカミですが、江戸時代には参詣者にお守り札を授与することを「イヌを貸す」と言っていました。他にも但馬の養父明神、丹後の大川神社、奥多摩の御岳神社など、オオカミを使いとする山神

は少なくありません。

イヌはおそらくオオカミが家畜化されて作られたものですから、両者の類似と混同は当然のことといえます。また、野性化したイヌは、時には目をそむけなくなるような情景を作りだしました。江戸時代までは、貧しい人の間で捨て子や捨て病人が絶えませんでした。このようになかわいそうな人たちがイヌの餌食になって食い荒らされ、イヌが人の死体にもたかったからです。

イヌとオオカミを混同する背景の一つには、このように弱い人を襲撃し、死体にたかる習性があったからです。けれども、イヌとオオカミは残酷なイメージだけで混同されたわけではありません。イヌは人に飼育されていますが、あくまで動物ですから、人には知りえない山や野の世界にだけ、山の獣なみに通じていると信じられていました。

『今昔物語集』には、猟師には気が付かなかった大蛇の存在を、イヌが敏感に察知し、主人に警告し助けた話もあります。数々の民話でも、人に化けたキツネやタヌキの正体を見破るのも、たいていはイ

ヌの役割になっています。

このようにイヌには人に迫る邪悪な物を認知し、これを事前に防ぐ能力を認められていました。そのイヌの破邪能力は、江戸時代においてもまじないに応用され、子供が誕生した時、魔物の障りを退けるために、イヌ箱・イヌ張子をそばに置く習慣がで、また、子供の額に紅脂で「犬」の字を書くと魔除けになるとされてきました。また、イヌのお産の軽いのにあやかるために妊婦が戌の日に岩田帯をしめる風習などもあります。

○遷宮奉祝

伊勢街道参宮キャンペーン

「神青協 第六十一回神宮式年遷宮奉祝記念事業」の一環として、十一月二十四・二十五日の二日間参宮キャンペーンが行われた。

これは、伊勢街道(参宮街道)を歩こうという企画で、一日目、桑名、松阪間(八十三キロ)を九区間に分けて歩き、二日目は松阪、内宮間(三十キロ)をハッピー姿の参加者総勢百五十名が幟をなびかせながら歩いた。都神青からも、篠会長をはじめ八名が参加した。

(本橋宣彦)

第二回教養講座

「靖國の心」

講師 大野俊康宮司

十月十二日、靖國神社にて第二回教養講座が開催されました。

当日は篠会長他三十六名が参加、遊就館の拝観・正式参拝に引き続き社務所会議室にて、大野宮司様より御講話を賜りました。

先ず遊就館では、現在の平和への感謝を込めて、厳粛な気持ちで御祭神縁の遺品等を拝観させて頂きました。いつ訪れても胸に熱いものが込み上げて参ります。

この込み上げて来る熱いものが「靖國の心」なのではないので



でしょうか。そして日本人としての感性を持っていけば、これを感じ取れるはずですが……。

しかし、神社側から頂いた資料にもあるように、極一部の者と信じたが、昨今の特に若い世代は、所謂戦後教育を受けたためかこの心を感じ取れない。外国人になつてしまったのだろうか？誠に残念でしたかたがありません。

この現象は、ひとごとではなく我々を含め戦後教育を受けている神社界の現任神職もわかりである。

篠会長も提言しておられたが、神職養成機関で教育課程の一環として靖國神社を参拝し、「日本人の心」を考へる機会を設けて頂きたいものである。

続いて御本殿での正式参拝は、明治天皇様の御幣帛にて調製したという鏡が心に焼き付きました。

この鏡のようにいつでも自分を磨いておかねば……。

いよいよ大野宮司様の講話となり、御祭神辞世の手紙を幾つか紹介頂きながら、「靖國の心」つまり「母の心」なのである、というお話しを承りました。

宮司様自身も学徒出陣されておられ、同朋が御祭神となってお

れるとのこと、何という御神縁か。そういうこともあってか、宮司様の熱き心が、受講しておる我々にも伝わり、目頭に熱いものを覚えたのは、私一人だけではなかったであろう。

講話の中で、靖國神社の若手職員のために、東京裁判パール判事の判決文の勉強会を計画中のこと、我々も是非参加させて頂けないものかと思つた。

結びに当たり、所謂靖國神社の国家護持問題を当会の会報である「やくわえ」昭和五十一年第十四号で特集しておりますので、今一度お読み頂ければと存じます。

なお、今後とも充実した内容の教養講座を目指しておりますのでご意見等教養部迄願えれば幸甚に存じます。

(教養部副部長 水谷敦憲)

○古典講座開催

教養部の新企画事業として、國学院大学講師藤森馨先生を招いて、『古語拾遺』を通読する古典講座が昨年の四月より毎月多数の受講者を迎え開催されています。

○神青協一都七県関東地区総会

去る六月七日茨城県神道青年会当番の下、水戸プラザホテルにおいて一都七県関東地区総会が開催された。来年当番県に当たる都神青からは二十九名が出席し、総勢百三十二名の盛大な総会となった。

午後一時開会の後の各県事業発表では当会から本橋総務部長より数多くの事業内容が報告された。

総会に引き続き、漫才界で大活躍された獅子てんや先生の『心変われば運命変わる』と題された講演では、長年コンビを組んで来たわんや氏との別れにより、これからの人生において、人の為に何が出来るかを色々な中から探し求め、現在このような第二の人生を歩み始めたと言う話の中に、我々も心の持ち方について考えさせられ、励まされる点が多くあった。

大きな拍手で終わった講演に続き懇親会が行われ、生のジャズバンドのもと元氣を取り戻した会員等は他会との交流を更に深め楽しい一時を過ごした。そしてその後、それぞれの期待と思いを乗せたホテルのマイクロバスは夜の水戸へと消えて行った。(内海寿之)

○神道行法錬成研修会

恒例の神道行法錬成研修会は、七月十二・十三日御岳山の麻知家に参宿して行われた。今回は、本橋総務部長、清水教養部長がそろって助彦としてデビューをかざり、齋藤直孝先生、そして篠会長とともに熱心に指導され、いつにも増して引き締まった研修会となった。

今年は冷夏、長雨で肌寒い上に山道の状態も悪く、綾広の滝への往復は苦勞させられたが、御滝の水量は豊富で、深山の靈氣を享けて無事故で禊を終えることができた。

夜の講話は香山邦英神社庁理事が講話を務められ「これからの神社及神職」と題して、世界の科学技術の实情を中心とした時事問題をまじえながら、二十一世紀を迎えようとする今、青年神職にとって法律や経済、そして科学などの知識がいかに大切かをお話しくださった。

禊を終えての直会では、参加者一人づつ感想を話したが、是非これからも参加していきたいとの声がいきり、実に頼もしい雰囲気だ。研修会を終了した。(丸山聡一)

○家族懇親会

八月十日家族懇親会が、篠会長を始め四十一名の参加を得て、氷川国際マス釣り場に於いて、バーベキュー・スイカ割り、マス釣り大会が開催された。

○第四回 雅楽研修会

八月十八日十九日の両日、神社庁に於いて参加者三十一名(半数以上が初心者)賑々しく雅楽研修会が、小野貴嗣先生をはじめとした小野雅楽会の先生を講師として開催された。

○忘年旅行会

神道青年会恒例の忘年旅行会は、去る十一月十八・十九日、熱海のサンリゾーピアに於いて、お忙しい中にもかかわらず諸先輩にも参加して頂き賑やかに行われた。

きれいだころに勧められるままに、飲めや唱えやの大騒ぎで全員が酒につかり湯につかり、楽しい熱海の夜を満喫した為か、何時までも部屋の灯りが消えなかった。翌日は、教養部主催によるMOA美術館見学会が行われた。(河野通具)

○健康診断

毎年恒例となった東京都神社庁及び神道青年会共催の、成人病検査を中心とした健康診断が、十月二十二日神社庁にて実施された。今回の受診者は八十三名であった。

○編集後記

東京都神道青年会会報が発刊二十周年を記念して、装いも新たに「やくわえ」という名称を以て、昭和四十五年に創刊されてより、このたび第五十号の刊行を見るに至りました。このことは、先輩諸兄が今日まで、当会発展のために尽くされた献身的な御努力と情熱の結晶の賜物と深く感謝致します。今後ともこの「やくわえ」が会員相互の情報伝達の軸となり、先人と同じ志を継ぐ青年神職の軌跡を刻む記録として、尚一層の努力を致して参る所存でございますので、御指導、御鞭撻を衷心よりお願い申し上げます。(広報部部长小俣章)

平成六年一月一日

東京都神道青年会

東京都港区元赤坂二―二―三

東京都神社庁内

電話 三四〇四―六五二五代